

□特 集

令和3年京都市人口動態統計(概数)の概要

合計特殊出生率が0.04ポイント低下

— 全国は0.03ポイント低下 —

悪性新生物による死亡率は一貫して上昇

— 依然として悪性新生物による死亡が最も多く、総死亡数の28.8%を占める —

自然減少数は前年と同じく1万人を超える

— 自然増減率は0.9ポイント低下、依然として自然減少が続く —

府健康福祉総務課

はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を経由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報(概数)、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、令和3年1月1日から12月31日までの間における京都府分について取りまとめたもので、数値は概数です。

1 出生

— 出生数は6年連続で減少、

出生率は0.2ポイント低下—

令和3年の出生数は、1万5818人で前年より622人減少しました。

出生率(人口千対)は6.3で、前年に比べ0.2ポイント低下しました。

近年の出生数の推移をみると、昭和48年の第2次ベビーブーム期のピーク(4万4885人)以降減少し、昭和62年(2万6603人)には昭和41年(ひのえうまの年)の2万7755人を、平成26年(1万9583人)には2万人を下回るなど、回復する年があるものの、減少傾向が続いています。(表1、図1)

表1 人口動態総覧、対前年比較

(単位：人)

	実 数					率		率(全国)	
	令和3年	令和2年	増減	増減割合(%)	平均発生間隔	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年
出 生	15,818	16,440	△622	△3.8	33分13秒	6.3	6.5	6.6	6.8
死 亡	28,309	26,860	1,449	5.4	18分33秒	11.3	10.7	11.7	11.1
(乳児死亡)	18	21	△3	△14.3	486時間40分	1.1	1.3	1.7	1.8
(新生児死亡)	8	6	2	33.3	1095時間00分	0.5	0.4	0.8	0.8
自 然 増 減	△12,491	△10,420	△2,071	19.9	…	△5.0	△4.1	△5.1	△4.3
死 産	316	297	19	6.4	27時間43分	19.6	17.7	19.7	20.1
婚 姻	9,417	10,197	△780	△7.6	55分48秒	3.8	4.0	4.1	4.3
離 婚	3,658	3,742	△84	△2.2	2時間23分	1.46	1.48	1.50	1.57

注1 令和2年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産)千対

3 算出に用いた京都府の人口は、令和3年=2,505,000人(令和3年10月1日現在・都道府県・男女別人口(日本人人口))

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

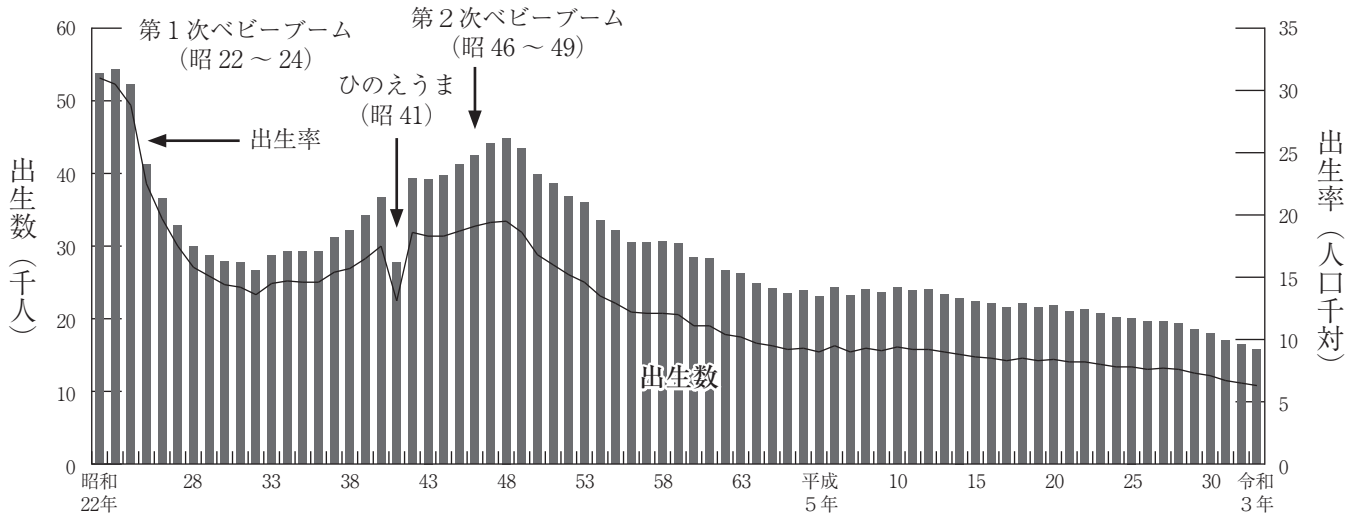
5 乳児死亡：生後1年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後4週未満の死亡数

7 死産：妊娠満12週以後の死児の出産

8 平均発生間隔：1件当たりの事象発生が、どれだけの時間間隔をもって発生したのかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.22

一前年より 0.04 ポイント低下
全国は 0.03 ポイント低下

令和 3 年の合計特殊出生率は 1.22 で、前年の 1.26 より 0.04 ポイント低下しました。(表 2)

母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34 歳の層で、出生率は 95.1 (出生数 5704 人) となりました。

30～34 歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29 歳の層を上回り、その後は出生数・率ともに第 1 位となっていますが、平成 27 年 (出生率 102.3) 以降は概ね横ばいで推移しています。

第 2 位は、25～29 歳の層で、出生率は 61.1 (出生数 3849 人) となりました。25～29 歳は昭和 47 年 (出生率 213.8) をピークに低下傾向が続いています。

第 3 位は 35～39 歳の層で、出生率 58.4 (出生数 4031 人) となりました。35～39 歳の層は上昇傾向が続いており、25～29 歳の層との出生率の差が昭和 53 年は 165.7 ポイントありましたが、令和 3 年には 2.7 ポイントまで縮小しています。

第 4 位は 20～24 歳の層で、出生率 14.8 (出生数 1079 人) となり、出生率については、15 を下回りました。(図 2)

図2 母の年齢階級別出生率の年次推移(人口千対)

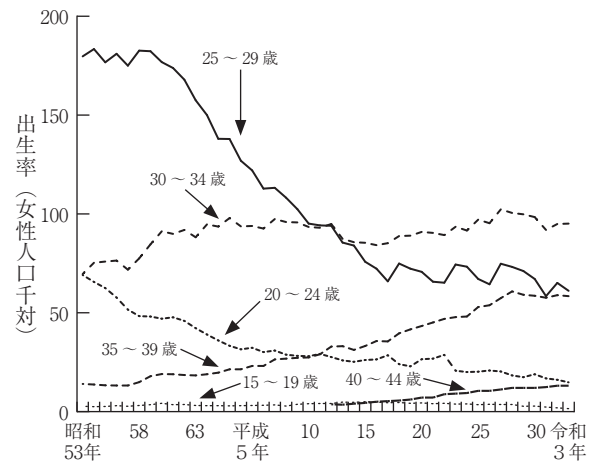


表2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年 ※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年 ※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39
24	1.23	1.41
25	1.26	1.43
26	1.24	1.42
27 ※	1.35	1.45
28	1.34	1.44
29	1.31	1.43
30	1.29	1.42
令和元年	1.25	1.36
2 ※	1.26	1.33
3	1.22	1.30

※は国勢調査年

合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子どもの数に相当します。

2 死 亡

一死亡数、死亡率はともに増加一

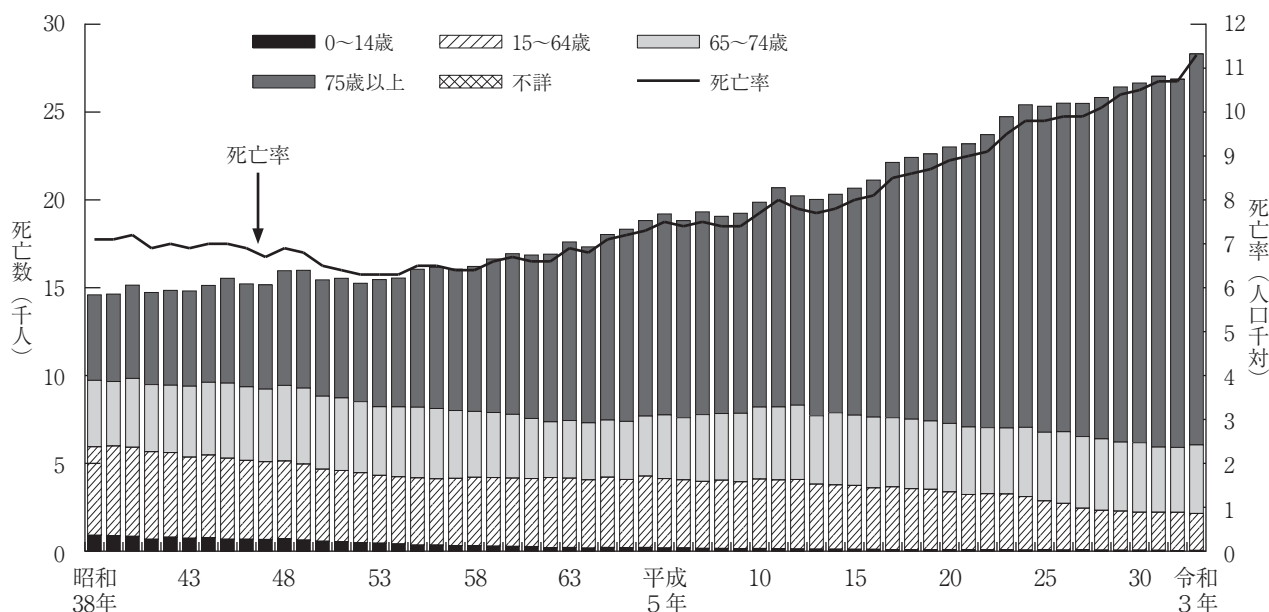
令和3年の死亡数は2万8309人で、前年より1449人増加し、死亡率（人口千対）は11.3と6年連続で10を上回りました。（表1、図3）

死亡数の推移をみると、昭和44年以降1万5千人～1万9千人台で推移していましたが、平成11年に2万人台となって以後、ゆるやかな増加傾向が続いています。

令和3年については、年齢別死亡数では、15～64歳の世代は前年を下回りましたが、それ以外の世代は増加しました。

死亡率は昭和35年（死亡率7.7）以降低下傾向にあり、52～54年に3年連続6.3と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇に転じ、平成13年（同7.7）以降は上昇傾向が顕著になり、令和3年は前年より0.6ポイント上昇し、11.3で過去最高となりました。（図3）

図3 死亡数・死亡率の年次推移



3 死 因

一悪性新生物による死亡率は一貫して上昇一

死因順位の第1位は悪性新生物（がん）で、令和3年の死亡数は7738人で、前年より17人増加、死亡率（人口10万対）は308.9で、前年より2.5ポイント上昇しました。悪性新生物による死亡が総死亡数に占める割合は28.8%でした。

第2位は心疾患の4651人で、前年より187人増加、死亡率は185.7で、前年より8.6ポイント上昇しました。

第3位は老衰で、令和3年の死亡数は前年より554人増加の2990人、死亡率は119.4となり、前年より22.7ポイント上昇しました。

第4位は脳血管疾患の1960人で、死亡率は78.2となり、前年より4.8ポイント上昇しました。

第5位は肺炎で、死亡数は1159人、第6位は誤嚥性肺炎で、死亡数は1111人でした。自殺は、

死亡数が388人となり、前年より39人増加しました。自殺死亡率は15.5でした。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の3大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、53.5%となりました。（表3、図4）

一悪性新生物(がん)部位別トップは「肺」一

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口10万対）をみると、第1位は前年に引き続き「肺」で死亡率は65.8で、前年より0.8ポイント上昇しました。

第2位は平成25年から引き続き「大腸」で死亡率は40.2で、前年より3.1ポイント低下しました。

第3位は「胃」で死亡率は33.9で、前年より0.9ポイント低下しました。第4位は「肝」で、死亡率は19.7で、前年より0.1ポイント低下しました。

また、肺、大腸、胃の上位3疾患で悪性新生物死因総数の45.3%を占めています。（図5）

表3 死因順位

死因順位	令和3年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	令和2年	死亡数(人)	死亡率	[参考] 全国(令和3年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,738	308.9	28.8	悪性新生物	7,721	306.4	悪性新生物	381,497	310.7
2	心疾患	4,651	185.7	17.3	心疾患	4,464	177.1	心疾患	214,623	174.8
3	老衰	2,990	119.4	11.1	老衰	2,436	96.7	老衰	152,024	123.8
4	脳血管疾患	1,960	78.2	7.3	脳血管疾患	1,849	73.4	脳血管疾患	104,588	85.2
5	肺炎	1,159	46.3	4.3	肺炎	1,303	51.7	肺炎	73,190	59.6
6	誤嚥性肺炎	1,111	44.4	4.1	誤嚥性肺炎	1,006	39.9	誤嚥性肺炎	49,489	40.3
7	腎不全	573	22.9	2.1	腎不全	539	21.4	不慮の事故	38,296	31.2
8	不慮の事故	551	22.0	2.1	不慮の事故	530	21.0	腎不全	28,686	23.4
9	アルツハイマー病	462	18.4	1.7	血管性及び詳細不明の認知症	409	16.2	アルツハイマー病	22,960	18.7
10	間質性肺疾患	429	17.1	1.6	間質性肺疾患	407	16.2	血管性及び詳細不明の認知症	22,343	18.2

注) 令和2年は確定数
死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別死亡率の年次推移(人口10万対)

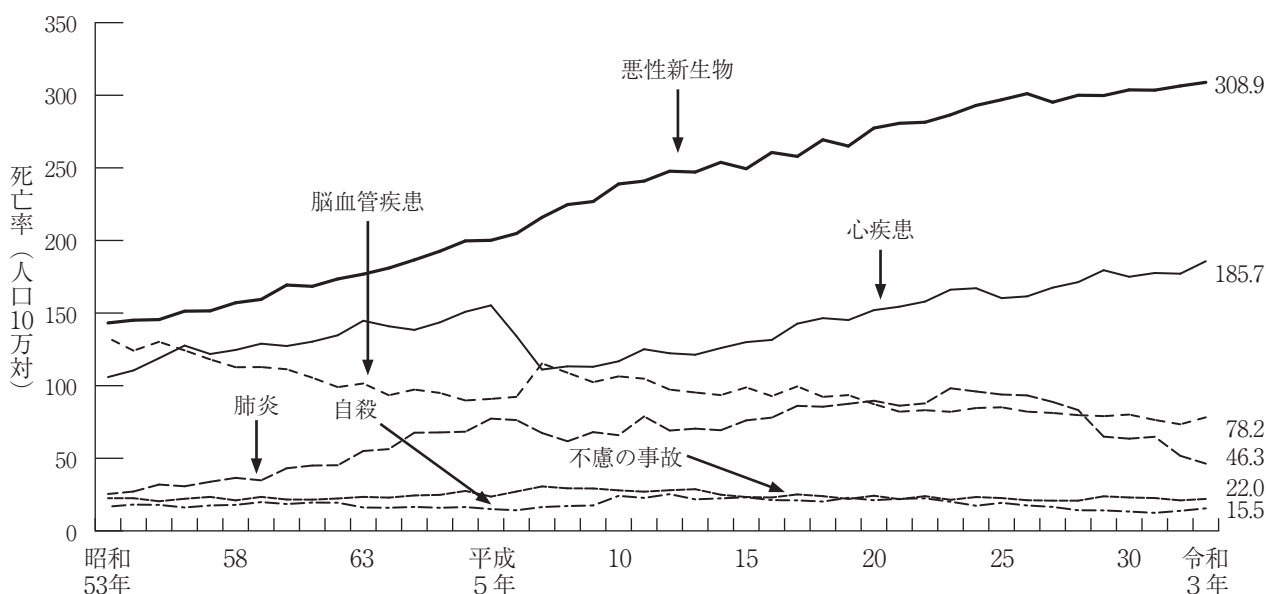
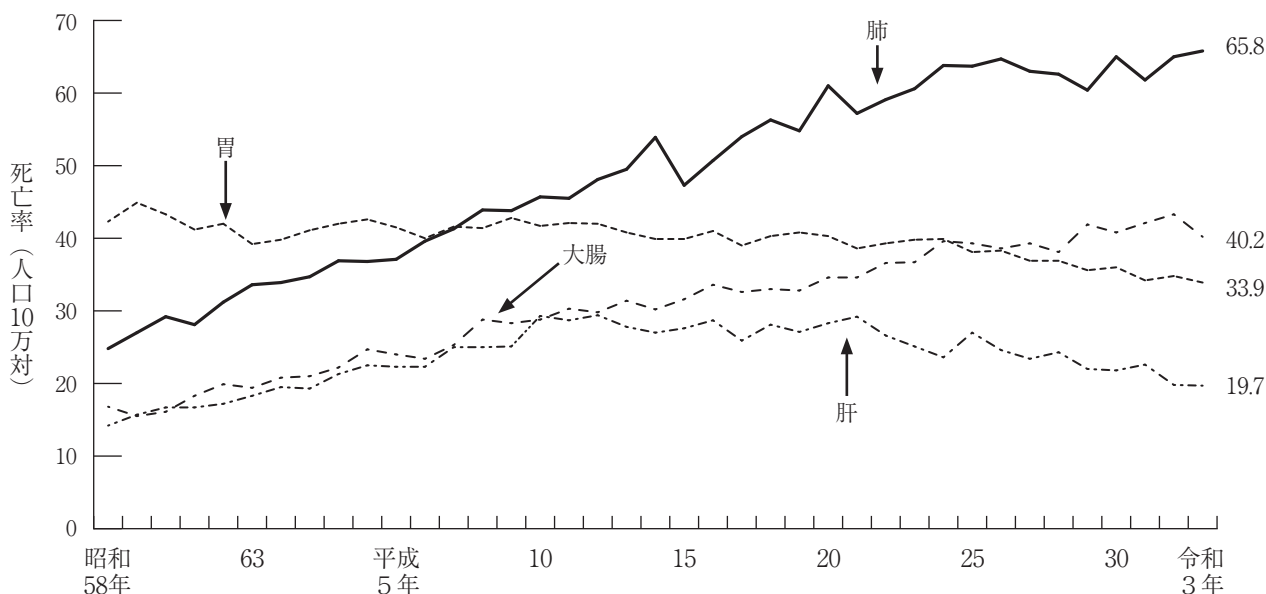


図5 悪性新生物(がん)の主な部位別死亡率の年次推移(人口10万対)



男女別死亡率をみると、男の死亡率（人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、94.4となり、前年より0.8ポイント低下しました。

第2位は「胃」で46.0と、前年より0.7ポイント低下したものの、3年ぶりに「大腸」による死亡率を上回りました。

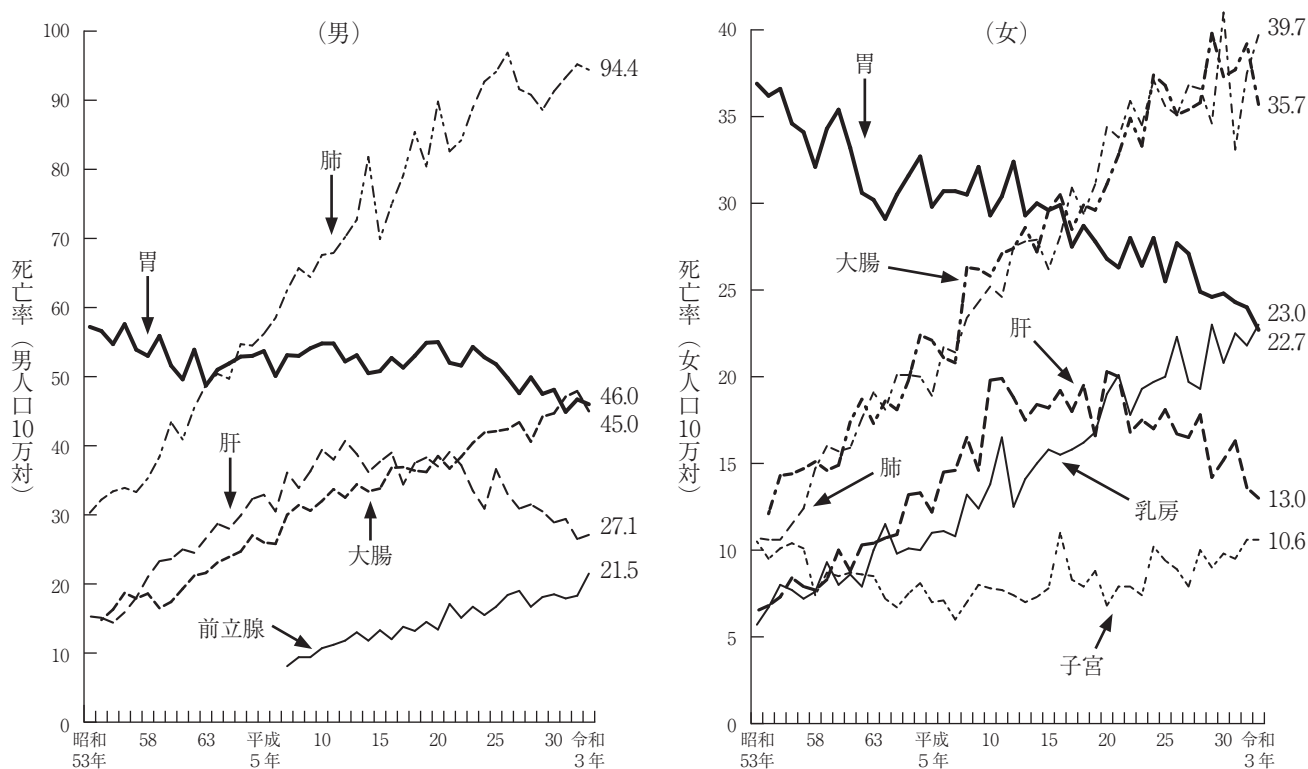
第3位は「大腸」で45.0、第4位は「肝」で27.1となりました。

女の死亡率（人口10万対）は、「肺」が39.7で第1位となり、前年より2.2ポイント上昇しました。

第2位は「大腸」で35.7、第3位は「乳房」で23.0となりました。

「胃」は22.7で前年より1.3ポイント低下し、「子宮」は前年と変わらず10.6でした。（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移（人口10万対）



- 注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。
- 注2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である。
- 注3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。
- 注4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。
- 注5 図6において前立腺の平成6年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

4 乳児死亡・新生児死亡

—乳児死亡率は0.2ポイント低下、

新生児死亡率は0.1ポイント上昇—

令和3年の乳児死亡数は18人で、前年より3人減少し、乳児死亡率（出生千対）は1.1で、前年より0.2ポイント低下しました。

新生児死亡数は8人で、前年より2人増加し、新生児死亡率（出生千対）は0.5で、前年より0.1ポイント上昇しました。（表1）

5 自然増減

—自然減少数は1万人を超える—

出生数から死亡数を減じた自然増減数は、平成17年に初めてマイナスに転じて以降、自然減少が続いており、令和3年には1万2491人となり、3年連続で1万人を超えました。自然増減率（人口千対）はマイナス5.0で、前年より0.9ポイント低下しました。（表1）

6 死 産

—死産率は 1.9 ポイント低下—

令和 3 年の死産数は 316 胎で前年より 19 胎増加、死産率（出産千対）は 19.6 と、前年より 1.9 ポイント上昇しました。（表 1）

7 婚 姻

—平均初婚年齢 夫は 31.1 歳、妻は 29.7 歳 男女とも晩婚化進む—

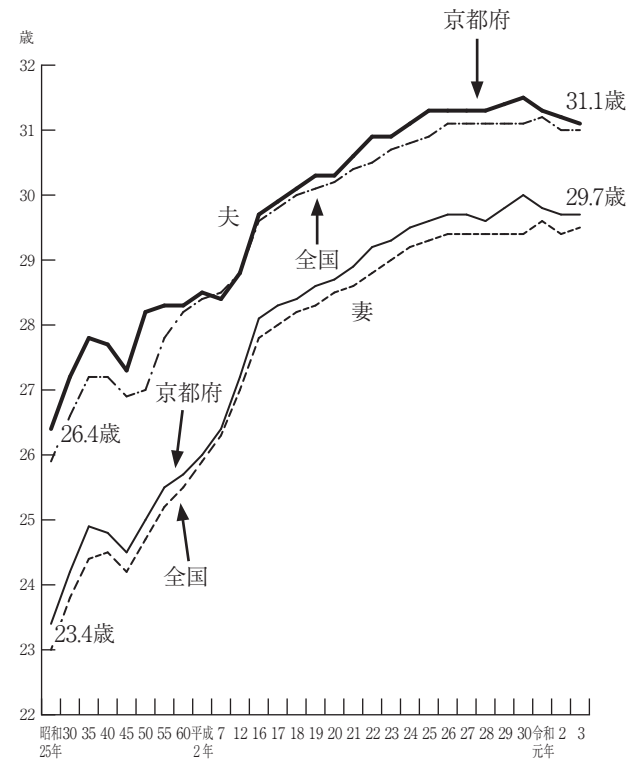
令和 3 年の婚姻件数は 9417 組で前年より 780 組減少し、婚姻率（人口千対）は前年より 0.2 ポイント低下し、3.8 となりました。（表 1）

また、平均初婚年齢は、夫が 31.1 歳で前年より 0.1 歳低下し、妻が前年と同じく 29.7 歳でした。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和 25 年以降は上昇傾向が続き、昭和 25 年（夫 = 26.4 歳、妻 = 23.4 歳）と比べると、夫は 4.7 歳、妻は 6.3 歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図 7）

図 7 平均初婚年齢の推移



注 1 昭和 40 年以前は、結婚式をあげた時の年齢、45 年以降は、結婚式をあげた時又は同居をはじめたときの年齢
2 記載の年齢は京都府の初婚年齢

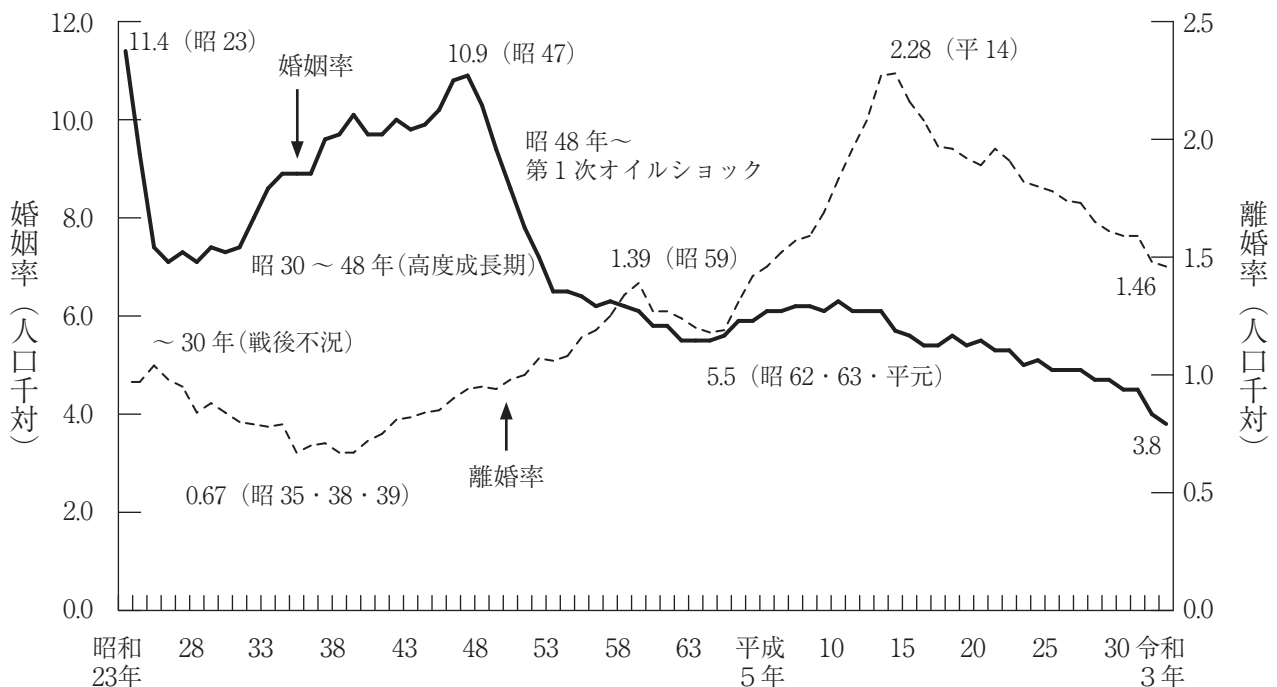
8 離 婚

—離婚件数は減少傾向が続く—

令和 3 年の離婚件数は 3658 組で、前年より 84 組減少し、離婚率（人口千対）は前年より 0.02 ポイント低下し、1.46 となりました。（表 1）

離婚率の推移をみると、昭和 35 年、38 年、39 年に戦後最低（離婚率 0.67）となった後上昇し、59 年以降低下していましたが、平成 2 年から再び上昇に転じ、平成 14 年には過去最高の 2.28 を記録し、その後は低下傾向が続いています。（図 8）

図 8 婚姻率・離婚率の年次推移（人口千対）



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（令和3年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死亡数	新生児 死亡数	死産数	婚 件	姻 数	離 件	婚 数	自 然 増加数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	15,818	8,119	7,699	28,309	14,282	14,027	18	8	316	9,417	3,658	△12,491		
京 都 市	8,767	4,480	4,287	15,633	7,837	7,796	8	4	172	5,906	2,109	△6,866		
その他の市町村	7,051	3,639	3,412	12,676	6,445	6,231	10	4	144	3,511	1,549	△5,625		
乙訓保健所	1,254	643	611	1,421	750	671	-	-	18	589	178	△167		
向日市	432	234	198	512	280	232	-	-	6	203	69	△80		
長岡京市	639	309	330	773	399	374	-	-	8	307	84	△134		
大山崎町	183	100	83	136	71	65	-	-	4	79	25	47		
山城北保健所	2,547	1,351	1,196	4,348	2,317	2,031	3	2	49	1,290	629	△1,801		
宇治市	1,064	541	523	1,815	952	863	2	2	16	608	303	△751		
城陽市	439	263	176	805	436	369	-	-	8	220	81	△366		
八幡市	339	178	161	743	404	339	-	-	11	187	103	△404		
京田辺市	547	287	260	590	310	280	1	-	8	178	84	△43		
久御山町	79	41	38	179	107	72	-	-	2	49	32	△100		
井手町	36	22	14	109	57	52	-	-	2	25	15	△73		
宇治田原町	43	19	24	107	51	56	-	-	2	23	11	△64		
山城南保健所	828	415	413	1,067	539	528	1	-	12	333	167	△239		
木津川市	613	314	299	621	326	295	-	-	11	209	119	△8		
笠置町	2	1	1	32	12	20	-	-	-	1	4	△30		
和束町	6	4	2	69	37	32	-	-	-	6	4	△63		
精華町	203	94	109	305	150	155	1	-	1	112	34	△102		
南山城村	4	2	2	40	14	26	-	-	-	5	6	△36		
南丹保健所	692	359	333	1,654	828	826	-	-	29	361	181	△962		
亀岡市	518	257	261	894	462	432	-	-	20	250	122	△376		
南丹市	127	74	53	495	245	250	-	-	9	88	43	△368		
京丹波町	47	28	19	265	121	144	-	-	-	23	16	△218		
中丹西保健所	607	316	291	1,018	480	538	2	1	11	322	109	△411		
福知山市	607	316	291	1,018	480	538	2	1	11	322	109	△411		
中丹東保健所	685	341	344	1,626	813	813	2	-	16	381	162	△941		
舞鶴市	505	243	262	1,086	543	543	2	-	13	297	118	△581		
綾部市	180	98	82	540	270	270	-	-	3	84	44	△360		
丹後保健所	438	214	224	1,542	718	824	2	1	9	235	123	△1,104		
宮津市	71	34	37	318	146	172	-	-	1	40	24	△247		
京丹後市	270	133	137	876	397	479	1	1	5	141	68	△606		
伊根町	16	8	8	54	28	26	1	-	-	3	3	△38		
与謝野町	81	39	42	294	147	147	-	-	3	51	28	△213		

